

第3学年1組 道徳科 学習指導案

実施日 令和〇年〇月〇日
指導者 〇〇 〇〇

1 授業の構想

主題名【法やきまりの意義】 内容項目【C 遵法精神、公德心】
(教材名「二通の手紙」 出典 日本文教出版 中学道徳 あすを生きる3)

ねらい	元さんのきまりに対する考え方とその行為の結果を話し合うことを通して、法やきまりは自分たちを拘束するものではなく、自分たちを守り、自分たちの社会を安定的なものにしていることに気付き、規律ある安定した社会の実現に努める態度を育てる。
ねらいについて	<p>本時のねらいは、内容項目の「遵法精神」を焦点化し、「法やきまりの意義を理解し、それらを進んで守るとともに、そのよりよい在り方について考える」ことについて考えを深めるよう設定したものである。</p> <p>学校生活における生徒の実態は、法やきまりの意義を理解している半面、自分たちを拘束するものとして反発する傾向も強い。学校生活の中においても、自分たちの都合や安易な考え方から法やきまりを軽視する傾向や、自分の権利は主張するものの自分の果たすべき義務をなおざりにする傾向もみられる。そこで、法やきまりは自分自身や他者の生活や権利を守るためにあることを自覚すると同時に、自分たちの社会を安定的なものにしていることについて考えを広げ、積極的に法やきまりに関わろうとする意欲や態度を育てたい。そのことが、自分たちが社会の一員であるという意識をもちながら理性的な人間としての生き方について理解を一層深めることにつながる。</p>
ねらいに近づけるための手立て	<p>【めあて】 事前に教材を読み、自分事として法やきまりの意義について考えておくことで、めあてをもてるようにする。導入では2年時の「オーストリアのマス川」での学びを振り返り、法やきまりに対する自分の考え方から問題意識を高めることで、授業のめあてを設定できるようにする。</p> <p>【振り返り】 これまでの法やきまりに対する自分の考え方や行動を、導入での問題意識を基に、展開、終末で想起する場面を設定することで、それを通してどのようなことが遵法精神といえるのか、自分事として考えたり、学びによる自分の変容を実感したりできるようにする。</p> <p>【対話】 対話する目的や課題を明確にすることで、法として大切にしなければならないことは何かという問題意識を解決するために、友達と語り合いたいという思いを高める。自分の生活経験を想起しながら話し合うことを通して、多様な考えや自分の心の弱さを感じたり、学習支援アプリに提出した回答を共有したりすることで、ねらいについての考えを広げたり、深めたりできるようにする。</p>
子どもの実態 35人	生徒は、2年時までの学習で、法やきまりについて「大切にしなければならない」という考えをもっている。一方でアンケートでは「時には守らないことがある」という回答が約7割あった。理由があればきまりを守らなくてもいいという生徒も数人いる。日常生活ではルールだから従えばよい、と他律的な捉え方をしたり、自分の都合で安易な解釈をしたりする場合もある。自分たちが自身の社会を安定的な秩序あるものにしていくことを考えようとする生徒は少ないと思われる。

【C 遵法精神、公德心】	
第1学年及び第2学年	約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切にすること。
第3学年及び第4学年	約束や社会のきまりの意義を理解し、それらを守ること。
第5学年及び第6学年	法やきまりの意義を理解した上で進んでそれらを守り、自他の権利を大切にし、義務を果たすこと。
中学校	法やきまりの意義を理解し、それらを進んで守るとともに、そのよりよい在り方について考え、自他の権利を大切にし、義務を果たして、規律ある安定した社会の実現に努めること。

第2学年（12月） 「オーストリアのマス川」 主題名：規則を守る	第3学年（10月） 「二通の手紙」 主題名：法やきまりの意義	第3学年（2月） 「ワンス・アポン・ア・タイム・イン・ジャパン」 主題名：規律ある社会
--	--------------------------------------	---

2 展開

過程	時間	学習活動	○主な発問・指示 ・予想される子どもの反応	○教師の支援 ◎評価	備考 ・ICT 機器等
導入	5	1 本時のめあてをもつ	○2年時の「オーストリアのマス川」で法やきまりの意義について学んだことを思い出しましょう。 ・法を守るためには法を知ることとその意義を考えることが大切だ。	○前学年で学んだ法やきまりの意義について想起し、現在の自分たちの生活や考え方から本時のめあてを設定する。	学習記録 ・道徳ノート ・学習支援アプリ ・心の数直線
		法やきまりの意義について考えよう。			
展開	10	2 教材を基に、法やきまりの意義について考える。 (1)元さんが「初めて考えさせられたこと」について話し合う。	○元さんは二通の手紙を通して法やきまりについてどのようなことを考えたのでしょうか。 ・親切なつもりだったが、二人の子どもを入れたことは間違いだった。 ・きまりを破れば、みんなの平等が守られないことにつながる。	○事前読みの内容をペアで確かめる。 ○思いやりや、自由、社会の秩序、法やきまりなどの視点で問い返すことで、考えを深めることができるようにする。 ○問い返しによって、理由や根拠を明確にし、自分たちの考え方や行動を基に想起できるようにする。	アンケート 構造的な板書の工夫
	15	(2)法やきまりの意義とは何かを考える。	○法やきまりを守ることの意義とは何でしょう。 ・法を守ることが、相手や周りを守ることに繋がっていると思う。 ・法やきまりが最終的に自他の生命や社会の秩序を守ることにつながるから、様々な場面で自分が考え判断していくことが大切だと思う。	○グループで話し合い、法やきまりの意義について、多様な考えが出せるようにする。 ◎法やきまりの意義について、多面的・多角的な視点から考えようとしている。 (メモ・発言)	思考ツール ・学習支援アプリ
	10	3 これまでの自分の法やきまりに対する態度を振り返る。	○これまでの自分は、法やきまりの意義についてどう考えていましたか。考えを深めることができたと思えることはありましたか。 ・法よりも思いやりが大切だと思っていたが… ・社会の秩序について…	○自分の生活の中で法やきまりよりも他のことを優先してしまったり、法やきまりについて考えたりしたことを想起し、考えが深まるようにする。	学習記録 ・道徳ノート ・学習支援アプリ
終末	5	4 学習のまとめを共有する。	○友だちの考えと比べながら、自分の法やきまりに対する考えの深まりを確かめる。	○心の数直線で考えの深まりを可視化することで、自己の変容を実感できるようにする。	・学習支援アプリ ・心の数直線

